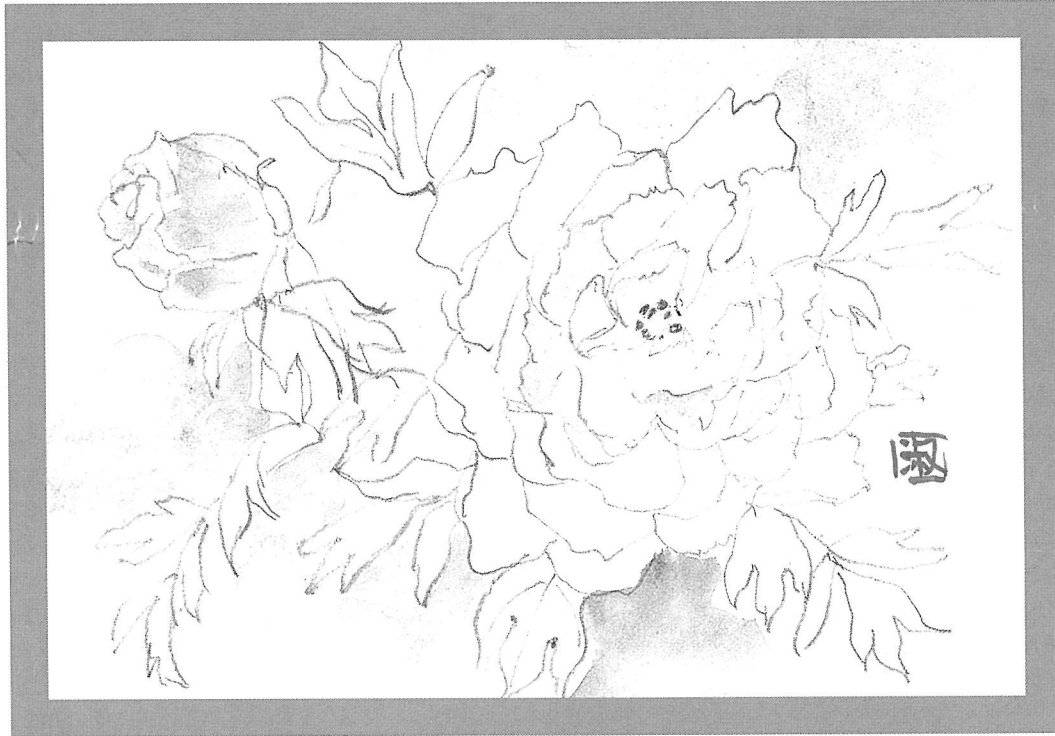


日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局
 〒 470-1192
 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
 藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室
 室内 電話 (0562) 93-2453
 FAX (0562) 93-3079
 発行責任者 竹内康浩・島 正吾

(題字 皿井 進筆)



牡丹の季節に寄せて
 満つる力は 破るる力 牡丹の芽

東海地方会の発展とさらなる実学的展開を祈念して

愛知産業保健推進センター所長
 (前 日本産業衛生学会理事長) 島 正 吾



日本産業衛生学会は、学会員7,000余名を擁し、平成11年度からは新たに選出された藤木幸雄理事長、竹内康浩副理事長のもとに、過去70年の輝かしい歴史をふまえて、清新の気に溢ちた第一歩を踏み出したことは、心から慶びとする所である。21世紀をまさに指呼の間にして、我が国の産業衛生事情の変貌はすさまじく、働く人々を取り

り巻く健康課題は、より複雑多様化の傾向を深めつつある。

こうしたきびしい産業社会の現実に対峙して、私共はつねに地方会活動を通して、健全な産業社会の確立をめざして不断の努力を重ねてきた。

そしてきたるべき21世紀に向かって、東海地方会は従来の発想法から大きく飛躍して、新たな目標達成のために“think global act locality”的な視点をふまえて、活発な実践活動の展開をしなければならない。

今私共の前途には、①超高齢社会の受け皿にふさわしい労働態勢

の構築、②産業二重構造の歪みを是正すべき中小企業健康管理の充実や、③古典的職業病の根絶を阻害する、様々なバリエーションを克服していかねばならない。また、④職場集団を侵襲せんとする多彩な新興、再興感染症の蔓延、⑤ハイテク産業や遺伝子ビジネスの開発に伴う、新しい次元での健康障害の出現、さらには⑥産業構造の複雑化や、コンピュータ・テクノロジーに支配される、現代病テクノストレスの増加など、これらに対する地方会活動の活性化への期待はきわめて大きい。

加えて、地域生産活動から派生するダイオキシン問題や、未知の環境ホルモン物質による健康影響防止への取組みも、決して看過できない課題である。こうした社会情勢下において、日本産業衛生学会副理事長であり、東海地方会会長である名古屋大学竹内康浩教授を擁した東海地方会の負うべき使命は重大である。竹内先生の真摯で卓抜したリーダーシップを核として、この地方への産業衛生活動の求心力を強め、ひいては我が国の将来に括目すべき新風を吹き込むような遠心力を涵養することを、ひたすら願ってやまないものである。

東海地方会長挨拶

竹内 康浩 (名大医衛生)



本年4月から3期目の東海地方会長を、また、日本産業衛生学会の副理事長を勤めさせていただくことになりました。今までは島正吾理事長のもとで、皆様のご協力を得て、当地方会は活発な活動を展開して、会員の数も順調に増加し、質量ともに発展してきたものと喜んでおります。

島理事長の退任に伴い、藤木新理事長のもとに執行部も大幅に変わりました。島先生のご活躍により、多くの懸案が解決されてきましたが、学会の課題はまだ山積しており、私も十分職責が果せるかどうか、身の引き締まる思いであります。

東海地方会の執行体制につきましても今回のニュースでお知らせしておりますように大幅に強化しました。副会長には井谷徹先生(名市大医衛生)に新しくお願いし、私の活動を一層支援していただくことになりました。学術部長には小林章雄先生(愛知医大衛生)、副部長には山内徹先生(三重大医公衛)、小野雄一郎先生(保衛大医公衛)、榊原久孝先生(名大医保健)をお願いし、学術部門の活動の一層の強化を図りたいと考えています。事業部長には寺沢哲郎先生(東海銀行)、副部長には渡辺美寿津先生(愛知医大衛生)、五藤雅博先生(旭労災病院)をお願いして、研究会等を中心に一層の強化を図りたいと考えています。渉外部長には井谷徹先生(副会長)、副部長には川上憲人先生(岐阜大医公衛)、吉田勉(保衛大医公衛)をお願いし、国内外の情報の収集と発信、医師会、推進センターなど関連機関との関係強化等を図りたいと考えています。総務部長は後藤円治郎先生(住友軽金属)、副部長には巽あさみ先生(保衛大

衛衛看)、山田琢之先生(愛知医大産保科学センター)をお願いし、年誌の発行、部会の強化等を図りたいと考えています。編集委員長は谷脇弘茂先生(保衛大医公衛)、副編集長には城憲秀先生(名市大医衛生)、長岡芳先生(保衛大医公衛)をお願いし、地方会ニュースの一層の充実を図りたいと考えています。執行部を中心に東海地方会の一層の活性化に努める所存です。日本産業衛生学会の中心的な任務は学会員の学問活動や実践活動及びその成果の発信をサポートすることであるとと考えています。学会の諸先輩の産業衛生の研究と実践活動がわが国の産業の発展に大きな貢献をしてきたことを誇りとしています。しかし、われわれの成果を科学的に整理して、普遍性を持ったものとして国内外に発信して、貢献する努力はまだ不十分であると考えます。現在、日本の経済は不況に喘ぎ、失業者の増加や労働条件の悪化が心配されています。しかし、労働者が生き生きと自分の能力を發揮できるような職場の労働条件の最適化と、消費者に喜ばれる製品やサービスを提供できる能力の發揮が、企業の発展のためには一層つよく要求されています。このような時期にこそ、産業衛生は大きな貢献ができるものと考えます。この厳しい状況の中で、産業衛生に従事しているわれわれに対する要求は大きく、それに応えるためには我々自身の能力や活動水準を高めるために厳しい努力が求められていると考えます。また、日本産業衛生学会会員の専門職として、能力が十分發揮できるような活動の場を広げたり、待遇の改善に努めることも学会の任務と考えております。会員の皆様のご協力とご支援もお願いして、挨拶といたします。

東海地方会新執行体制(案) (1999.4-2001.3)

地方会名誉会長 島 正吾

地方会長 竹内康浩

副会長 井谷 徹

学術部長 小林章雄、副部長 小野雄一郎 榊原久孝 山内 徹
(学会・研究会のあり方、企画等担当)

事業部長 寺沢哲郎、副部長 渡辺美寿津 五藤雅博
(研究会、地方会総会研修会等の企画等担当)

渉外部長 井谷 徹、副部長 川上憲人 吉田 勉
(国内、国際情報の収集、医師会、労基局、推進センター等担当)

総務部長 後藤円治郎、副部長 巽あさみ 山田琢之
(年誌の発行、役員選挙、産業医部会、産業看護部会等担当)

編集委員会 委員長 谷脇弘茂、副委員長 城 憲秀 長岡 芳
(地方会ニュースの発行)

事務局 柴田英治、事務局担当 上島通浩 樋田真知子

産業医部会担当 後藤円治郎 山田琢之

産業看護部会担当 和田晴美 荻田佳子 中川祐子 青山京子
黒谷万美子

産業歯科部会担当 金山敏治 中垣晴男

産業技術部会担当 土屋博信 土屋真知子

各県担当

愛知県 竹内康浩 井谷 徹

岐阜県 花井喜一郎 加藤保夫

三重県 中尾一吉 木下勝也

静岡県 鎌田 隆

地方会研究会世話人

1. 職場精神衛生研究会 小林章雄 川上憲人 大久保浩司
巽あさみ 富田晃行 藤田 定 渡辺美寿津

2. 職域肺疾患管理研究会 立川社一 加藤保夫 柴田英治

3. 振動障害研究会 榊原久孝 岩田弘敏 松本忠雄
井奈波良一

4. 産業衛生活動評価研究会 吉田 勉 巽あさみ 大久保浩司
監事 福井 明 石田光代

地方会ニュースとともに15年

岩井 淳 (全日本労働福祉協会)



地方会ニュースも今回で第46号、昭和59年9月に創刊号を発行してから15年になりました。ともかく年3回なんとか今まで続けてこられたのは、まったく編集委員の先生方の献身的な努力によるもの以外のなにもありません。

創刊当時

思えば故皿井進先生のあとをうけて、島先生が新しく東海地方会長になられ、地方会活動の一環として「地方会ニュース」を会員のための情報交換の場として発行されることになったのは、まったく素晴らしいことでした。最初に編集に携わることになったメンバーは、私のほかに柏木時彦、加藤保夫、小森義隆、竹内康浩、久永直見、森川利彦の諸先生の7名で、ともかく全員で頑張るほかないという思いで取り組んだわけです。創刊号ができあがってきたときはそれこそそれまで苦勞もすべて吹き飛んだ思いで、皆で祝杯をあげたのです。

編集委員の現在

昭和62年5月第9号から編集委員として愛知県だけでなく各県からも参画してもらおうということで、岩田弘敏先生ほか3名の先生方にも願うこととなり、その後平成5年に、竹内先生が地方会長になられてから執行部も体制が整備され、「地方会ニュース」も私に代わって吉田勉先生が編集責任者になられました。同時に編集委員も新たに8名を加えて強力になってまいりました。その後メンバーには多少異動があり、現在は吉田先生を中心に15名で動いております。

編集委員会の開催

編集委員会は、毎月発行の2か月前から、夕方6時半頃から2時間近く名大の医局等でだいたい3回はやっています。第1回目はニュースの内容、テーマ、執筆者等をきめ、2回目はある程度原稿が集まった時点で、レイアウトその他活発な意見交換を行い、同時に初校も行います。3回目は最終的な編集内容の見直しと再校正を行います。比較的簡単な場合は編集事務局に任せることもあります。いずれにしても編集作業はなかなかたいへんです。もちろん編集の仕事が中心なんです、実際はそのほかの雑談のほうが非常に面白く、学会関係のことばかりでなくいろんな情報、話題が次々に出てきて、話がまったくとんでもないほうにいつてしまったり、これが結構勉強になり楽しいもので、時間のたつとも忘れることがしばしばであります。

皿井先生を偲ぶ

皿井先生がお亡くなりになった時は、特別追悼号を平成6年8月に臨時に発行しました。この時は全国各地地方会から原稿をいただき、

また、先生と親しかった10名近くの地方会の先生方と「皿井先生を偲ぶ座談会」を開いて、その編集等でこれが定期刊行のほかの割り込みの仕事になってしまったので、この時はまったくたいへんでした。しかし今ではその第31号を見るたびに当時の苦勞、忙しかったことが懐かしい思い出となっています。

地方会ニュースの歴史性

地方会の会員数は昭和59年当時の310名に比べますと、平成10年12月には896名と2倍以上になりまして、会員数の増加ということも地方会活動の活性化のひとつの現れとみるならば、このニュースの成果はそれなりにあったものと思っております。

「地方会ニュース」は地方会の記録が中心ではありますが、全国的あるいは国際的な産業医学、労働衛生の動向をできるだけ早く、正確に会員諸氏に伝えることが大きな目標でありまして、バックナンバーを振り返ってみますと、これはひとつの立派な歴史を残しているものといえます。当地方会には記録集として「東海地方会誌」が年1回だされておられ、「地方会ニュース」は時事性、速報性に重点を置き、「地方会誌」は正確な記録を残すものとして役割分担しています。いずれも産業医学、労働衛生に関する貴重な歴史を示すものとして後世に残るものと考えております。とくにこの「地方会ニュース」は産業衛生学会の他の地方会にはみられない独自の素晴らしいもので、今後ともぜひ立派に継続し、東海地方会に「地方会ニュース」ありと全国に誇るに足るものとしていきたいと思っております。



特 集	<h2 style="margin: 0;">第14回 産業医・産業保健婦・産業看護婦・ 衛生管理担当者のための研修会</h2>
-----	--

はじめに

毎年恒例の研修会である。いつもながら多くの参加者が得られ、担当者としてこれにまさる喜びはない。企画運営委員の知恵をしぼったテーマ、素晴らしい講師陣もさることながら、毎回参加して下さる方々の熱心さに支えられているのである。

プログラム

日 時：1999年3月19日（金）10：00～16：45
 場 所：産業技術記念館 大ホール
 10：00-10：15 開会の挨拶
 日本産業衛生学会東海地方会会長 竹内 康浩
 10：15-11：45
 講演「労働衛生の未来を考える－人間工学的視点をきっかけとして－」

藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教授 小野雄一郎
 座長 大久保浩司（東芝四日市工場産業医）
 石田 光代（トーエネック産業保健婦）

11:45-13:00 休憩（昼食）
 13:00-14:30
 講演「メンタルヘルスの現状と将来－精神科医の立場から－」
 久屋大通いとうクリニック院長 伊藤 彰紀
 座長 小林 章雄（愛知医科大学教授）
 14:30-15:00 休憩（コーヒープレイク）
 15:00-16:30
 講演「介護保険制度の問題点と課題」
 日本福祉大学社会福祉学部教授 牧野忠康
 座長 山内 徹（三重大学医学部教授）
 16:30-16:45 閉会の挨拶

「労働衛生の未来を考える－人間工学的視点を きっかけとして－」を聴いて

五 藤 雅 博（旭労災病院）



演者の研究テーマである人間工学は、これからの労働衛生の中心的課題であり、労働衛生の未来を考えるというテーマにはぴったりの講師である。講演のはじめの部分は、未来に通じる労働衛生の課題について述べられた。これは人

間工学の分野に限らず、大きくとらえたものである。

疾病管理や職業病対策から快適職場環境形成や体力づくりへの基本的方向性を示され、具体的には①人間工学的考え方の普及・進展、②作業関連疾患の考え方の普及・進展、③健康づくり、④メンタル・ストレス対策をあげられた。つぎに産業保健スタッフをめぐる状況について触れられ、①労働衛生活動の評価、②新しい課題にえられるスタッフの育成、③自主的活動を援助する力量の必要性を述べられた。

続いて、本日の主テーマである人間工学的な考え方について、具体的な例をあげながら、わかりやすく話された。

次に作業関連疾患の話に進まれ、作業関連運動器疾患についての職場サーベイランス（職場チェックと健康資料チェックを結合させ

て取り組む）の話は印象的であった。いずれも演者の研究領域であり、経験例が多く、説得力があった。

健康づくりの話では、①自主的に継続的な取り組み、②職場のストレス要因の改善対策、③評価についての必要性を述べられた。最後に労働時間問題を話された。また女性労働者の問題にも触れられた。時間の関係で最後は若干急がれた感があったが、残された時間をなるべく参加者とディスカッションしたいという演者の考え方からである。時間ぎりぎりまで、座長の大久保、石田両先生の司会により、活発な討論となった。



（小野雄一郎先生）

『メンタルヘルスの現状と将来 －精神科医の立場から－』を聴いて

中 川 祐 子（東芝三重）



今回、伊藤彰紀先生から、患者さんの治療者として、又企業の囑託精神科医としての御経験を基に、大きく、メンタル疾患の多様性と事例についてどう理解するか、さらに疾患への対応についてわかりやすくお話をいただきました

た。まず1つめの問題点としてメンタル疾患の多様性をあげられました。『うつ』1つをとっても古典的な『うつ病』を始めとして、逃避型うつ病、頻回欠勤者の抑うつ、境界人格障害のうつ、薬剤副作用からくるものや疾患に伴ううつ症状など幅広く考える必要があること。さらにそれらの対象事例をどのように理解するかということが重要となり、それから見きわめ、見通しが異なってくるということです。私達は重い方が病気で不適応が軽いと思いがちですが、そうではなく、軽くても病気は病気であると見ること。中でも見通しを立てやすくするため、見立てとして「神経症」と

「パーソナリティのゆがみ」の2つの系列で見ていくとわかりやすく良いとのことでした。また、対応の流れについては、本人を出発点としたルートと上司を出発点としたルートで考えてゆくことが大切であること。中でも、本人が行き詰っているのにうまく治療につながらないケースが多いということで、対応を工夫したり、ネットワークを組むことによりうまく機能できるのではないかとという提案をなされました。他にいろいろな症例や対応の仕方、考え方等についてお話をいただきました。最後にまだまだ有利な条件は見当たらないが私達のやるべき道を提案していただいたという座長のまとめで講演は終了しました。貴重なお話をいただき、とても勉強になりました。苦手なメンタルヘルスも少しは取り組みやすくなったのではないかと思います。

ありがとうございました。



(伊藤 彰紀先生)

「介護保険制度の問題点と課題」を聴いて



寺澤 哲 郎 (東海銀行)

平成12年4月より実施がスタートする公的介護保険は、産業保健の場でも関心が高く、産業保健従事者の間でもケアマネージャーの資格を取得する者が現れたりなどしているが、実際に産業保健の場でどのように関わっていけばいいかという点については、「従業員の親の介護の相談を受けるかもしれない。」など漠然としたイメージしか持たれていないのが現状であろう。

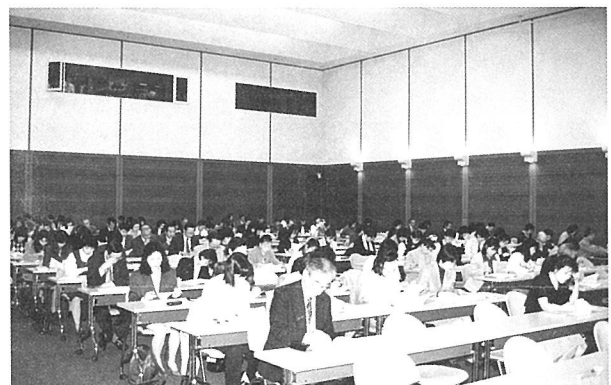
牧野先生のご講演では、単なる介護保険制度の説明ではなく、いきなり「介護保険は介護保障ではない。」と核心に入るところから始まり、介護保険は国の医療保険・社会福祉の構造改革の一環として行われるものだ、介護問題への対応を措置制度から保険制度に変

換し自己責任に基づいて行うようにするものだ、民間業者の参入も許し市場原理を導入するものだ、など制度の本質を鋭く指摘する解説が行われた。そして現時点で既に、モデル事業での要介護認定の2割は実態に合っていない、ケアマネージャーが粗製乱造されレベルが低い、などいくつかの問題点が現れてきていることを指摘された。

産業保健従事者としての介護保険との関わり方については、妻の介護のために退職された高槻市長の例を挙げて、企業にとって従業員の介護不安・介護負担への対応は、良質な労働力の確保のためには必須事項になってくるとのこと、介護支援を行うためのケアマネジメントの手法は、介護問題だけでなく産業保健の現場でのケースマネジメントに生かすことができるということ、産業保健活動を地域保健とどのように結びつけていくかという視点が必要ということなど重要な点をいくつか指摘された後、産業保健従事者として事業所の枠にとらわれることなく、グローバルな視点で、地域への貢献といった観点からも自らの行動を見直してみる必要があることを強調された。単に介護保険の問題にとどまらず、自らの日頃の業務に関わる姿勢についても考えさせられるご講演であった。



(牧野 忠康先生)



(会場風景)

新 刊 紹 介

色覚異常に配慮した 色づかいの手引き

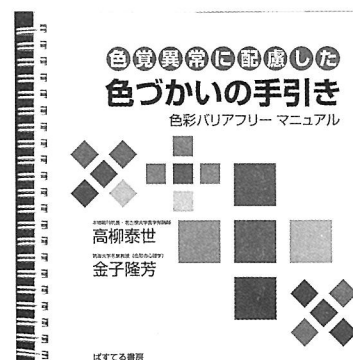
～色彩バリアフリーマニュアル～

著 者：本郷眼科院長 高柳泰世、筑波大学名誉教授 金子隆芳

発行所：ぱすてる書房 定価3,333円

本書は、著者らによって新しく開発された色覚検査用である「色のなかまテスト」CMT (Color Mate Test)の意義・使用方法について、わかりやすく解説されています。このテストを実施することにより、色覚異常の児童・生徒がどの色が判別できないかがわかり、教科書、コンピュータ支援教材などが適切な色刷りや必要なコメントの付加をするなどの改善が可能になります。また、産業衛生に関わる私たちにとって、職業適性の判断の指標として、重要な手引き書になると思われる1冊です。

(藤田保健衛生大学衛生学部 衛生看護学科 巽あさみ)



ぱすてる書房

日本産業衛生学会産業看護師について

萩田 佳子 (名古屋市水道局)



桜の開花を告げる便りがそこ、ここにきかれる頃、私達産業看護職が待ち望んでいた産業看護師登録に伴う、登録証、産業看護職継続教育手帳等の交付が始まりました。今回はこのことについてお話してみたいと思います。

まず、日本産業衛生学会産業看護部会は産業看護師登録の意義について次のように考えています。

(文中の図1、2、表1、2、3は同封の別紙参照)

1. 日本産業衛生学会産業看護師の名称は
 - (1) 日本産業衛生学会が、あなたに産業看護実践者としての保証をします。
 - (2) 社会での認知への期待と、将来への展望の基礎とします。
 - (3) 産業看護学のもとに、質の向上を目指して継続教育のスタートにします。
2. 日本産業衛生学会産業看護師登録の意義については
 - (1) 日本産業衛生学会産業看護部会の前身である日本産業衛生学会産業看護研究会は1978年に発足しましたが、産業看護講座は日本産業衛生学会教育・資料委員会のもとに「産業看護カリキュラム」が完成され、これに基づく産業看護講座が第5回まで開催されました。
 - (2) 1992年産業看護研究会は産業看護部会へと発展し「産業看護職継続教育システム」(図1)を構築し、産業看護講座をスタートさせました。産業看護部会では産業看護の基本をこの「産業看護職継続教育システム」の基礎コース(表1)終了レベルと考えています。したがって日本産業衛生学会産業看護師の登録をもって社会に産業看護実践者としての資質を保証していきます。
 - (3) 日本産業衛生学会産業看護師としての資質向上は、実力アップコース(表1)、向上教育コースへと積み上げていくことができます。

次に日本産業衛生学会産業看護師の登録該当者と登録申請手続きについてまとめてみます。

1. 該当者
 - (1) 日本産業衛生学会産業看護部会主催産業看護講座基礎コース全課程修了者
 - (2) 日本産業衛生学会教育・資料委員会主催産業看護講座(1983～1994年度実施)全課程修了者
 - (3) 産業看護システム協力者、産業看護システム移行期(1996～1998年度)に限り、基礎コース修了に匹敵する実績ある産業看護職(検討中、詳細は近日中に発表できる予定)
 - (4) 産業医科大学医療技術短期大学専攻科卒業者で2年以上の産業看護実務経験者
2. 発行日
 - (1) 毎年2月 5月 8月 11月の1日
 - (2) 発行月の前々月末日までに申請をしてください
3. 申請先

(株)日本産業衛生学会 産業看護事務局

〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3F
 (株)ヒューマン・リサーチ内 TEL 03-3358-4001

4. 提出書類等
 - (1) 登録申請書(図2)
 - (2) 身分証用写真(2.5mm×2.3mm・カラー可)
 - (3) 登録料振込み済を証明するもの(銀行振込み控のコピー等)
5. 登録料

(1) 日本産業衛生学会産業看護部会員	18,000円
(2) 日本産業衛生学会会員(非部会員)	20,000円
(3) 非学会員	25,000円

6. 振込み先

住友銀行 四谷支店 普通預金 493172
 口座名 産業看護師事務局

7. その他

手続き終了後、登録証・身分証・産業看護職継続教育手帳をお送りいたします。尚、登録有効期限は5年間とし、以降は5年毎に更新を行ってください。

おわりに産業看護職継続教育システムの運用についてお話しします。

1. 看護婦が基礎コースを受講するためには、Nコース(表2)を修了することが必要です。
2. 看護婦で衛生管理者の有資格者及びこれと同等以上の講習を修了した者は、別に定める短縮Nコース(表3)を修了することにより、Nコースを修了したものとします。
3. 教育・資料委員会主催の看護講座第1回～第5回を修了した者は、保健婦については基礎コースを、看護婦についてはNコースならびに基礎コースを修了したものとみなします。
4. 日本産業衛生学会が認めた教育を受けた者は、基礎コースを修了したものとみなします。

以上 日本産業衛生学会産業看護師について述べてきましたが、大切なのは無論私達自信の中身です。「名前ってなに?バラと呼んでいる花を、別の名前にしてみても美しい香りはそのまま」『ロミオとジュリエット』の中の有名なせりふを傍らの天声人語にみつけ、改めてその名に恥じないよう日常の努力を重ねていきたいと心に誓った次第です。

学会・研究会

第3回静岡県産業保健研究会

浅井八多美 (ヤマハ豊岡工場診療所)

平成11年1月22日、第3回静岡県産業保健研究会が浜松市アクロシティ・コンgresセンターにて開催された。テーマは、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法の改正にあわせ「働く女性と母性」さらに「産業衛生スタッフに必要な安全の知識」。当日は医師76名、産業看護職53名、衛生管理者等11名、計140名と多数の参加があった。「働く女性と母性」では、浜松市保健福祉部の齊藤一路女先生が年表を用い、産業保健と母子保健のちぐはぐな歩みをすっきりと整理してお話くださった。歴史の流れの中、今回の法改正で、初めて二つの保健行政の道が重なったことが実感でき、聴く人に大きな感銘を与えた。続く中災防の菊池昭先生のご講演では、従来別個にとらえられていた環境、安全、健康の問題を、一つの問題として管理するトータルリスクマネジメントの概念をわかりやすく解説していただいた。フロアからは改正法の具体的な運用、母性健康管理指導事項連絡カードの利用法や問題点について活発な意見が出された。今回のテーマは産業衛生の重要な問題であるにも関わらず、産業医研修手帳では「その他」にしか該当しない。盲点をついた研究会だったのではないだろうか。

第44回職場精神衛生研究会

高崎 正子 (東芝四日市)

2月12日ルブラ王山にて、愛知学泉大学助教授 建石真公子先生に「女性雇用労働者の現状—法的側面から—」というテーマでご講演いただきました。今回は「働く女性のメンタルヘルスについて」ということでしたが、実際は①日本の雇用女性労働者とは②日本の女性をめぐる社会的状況と法制度③日本の雇用女性労働者の現状④セクシュアル・ハラスメント⑤男女雇用機会均等法の改正⑥女性—無償労働と有償労働、そして非対称の性文化の中で—という内容で話がすすめられました。その中で、女性の労働条件を、男性のものをそのままあてはめるだけでは解決しない、女性のみが置かれている社会的状況があるということ、事実上家族責任を担うことを要請されている女性にとって、時間外・休日・深夜労働に関する保護の廃止は非正規雇用への変更を意味するという内容が印象に残りました。今後でも性別分業意識が強い社会のなかで、働き続ける女性であるがゆえに悩みをもつことも当然であると予測されます。個別的なサポートだけでは解決していかない問題ではありますが、今回法律を通して女性の置かれている現状を客観的に知ることが出来たことは、メンタルヘルスを考える上で一助になりました。

シンポジウム

「労働安全衛生管理マネジメントシステム」

小森 義隆 (大同産業医学研究所)

日本産業衛生学会産業医部会主催の3回目の研修会として、表題のシンポジウムが日本産業衛生学会東海地方会との共催で、平成11年2月19日(金)14:00~17:00に名大医学部鶴友会館で開催された。

この「労働安全衛生管理マネジメントシステム」は、各事業場で安全衛生管理の向上をはかるために、又組織的・安定的な安全衛生管理を推進するため、「計画—実施—評価—改善」という一連のプロセスを明確にした、連続的・継続的なシステムで、行政当局とし

ても、この新たな安全衛生管理手法の、各事業所への導入を推進することを、今後の施策としている。

今回の研修会の参加者は約80名で、質疑応答も活発に行われ、意義ある研修会であった。当日のプログラムは次の内容であった。

座長：竹内康浩 (日本産業衛生学会東海地方会長)

シンポジスト

小出勲夫 (トヨタ自動車)

「産業界における労働安全衛生管理マネジメントシステムの動向—自動車産業の取り組み—」

熊谷謙一 (日本労組総連合会 労働対策局長)

「労働安全衛生管理マネジメントシステムに関する内外労働組合の動向」

高田 昂 (中災防)

「わが国における労働安全衛生管理マネジメントシステム」

第12回振動障害研究会

榊原 久孝 (名大医保健)

第12回振動障害研究会が、平成11年3月15日(土)愛知県勤労会館第1視聴覚室で午後1時30分から4時まで、10名の参加者で開催された。演題は、原田規章先生 (山口大医衛生) の「日本産業衛生学会手腕振動許容基準改定案について」、前田節雄先生 (近畿大・理工・経営工学) の「ISOおよびCENの手腕振動の許容基準と測定評価方法」、榊原 (名大医保健) の「振動障害患者の電流知覚閾値 (current perception threshold)」であった。原田先生からは、ISOの動きと合わせ3軸合成値で1日8時間値として $2.8\text{m}/\text{S}^2$ を手腕振動許容基準の改定案として提案したが、10年間の振動曝露で日本での非振動性レイノー現象有症率を越えない振動レベルとして設定した旨、検討資料を含め詳しく説明された。前田先生からは、振動の測定・評価方法の立場から、ISOやCENで工具出荷時の振動測定・評価法とともに作業現場での振動測定・評価法についても議論が進んでおり、我が国でもJISなどに考えていく必要があることを紹介された。榊原からは、振動障害の末梢神経機能検査として電流知覚閾値を振動障害患者で測定した結果、患者では健康者より有意に鈍麻していたとの報告があった。

第3回職域肺疾患管理研究会

加藤 保夫 (岐阜県産業保健センター)

平成11年3月13日(土)、第3回職域肺疾患管理研究会が名大医学部鶴友会館 (参加者23名) にて開催された。竹内徳之先生より「気管支喘息の診断・治療から生活指導まで—職業性喘息も含めた最近の動向」と題して、①診断：喘鳴、呼吸困難発作、乾性ラ音、好酸球、IgE増加、閉塞性障害、吸入誘発試験、抗原同定など、②治療：吸入ステロイド、 β 刺激薬など、③生活指導：寝室などの清掃について講演いただいた。

次に山木健市先生より、「過敏性肺臓炎の病態とその成因について」と題して、①病態：細気管支・肺泡域の細胞浸潤、類上皮細胞肉芽腫、②成因：夏型過敏性肺臓炎が日本では一番多いことなど講演いただき、症例1「プリンタ製造クリーンルームにおける過敏性肺臓炎の発生」では、職場に起因した過敏性肺臓炎4名の臨床経過が紹介され、柴田英治先生からは、職場環境から発症前後で使用材料の質的变化はないことが報告された。症例2「鑑の分別作業従事者における過敏性肺臓炎の発症例について」では、免疫学的な検査、肺生検、X線所見などから鑑が原因の鳥飼病と診断された臨床経過が近藤りえ子先生より報告された。

これからの諸行事予定

- 1. 日本人間工学会第40回大会
 - 日 時：平成11年 5月15日(土)~17日(日)
 - 場 所：トーエネック教育センター、大同工業大学
- 2. 平成11年度東海地方会総会・研修会
 - 日 時：平成11年 6月18日(金)10：15~16：00
 - 場 所：ホテル・グランヴェール岐山 5F孔雀の間
 - 特別講演1「音楽療法と健康-職域での応用の可能性も含めて-」
門間 陽子(岐阜県音楽療法研究所所長)
 - 特別講演2「産業医活動40年をふりかえって」
廣田 昌利(三洋電機統括産業医)
 - 特別講演3「職域における糖尿病管理の考え方と実際-境界域も含めて-」
安田 圭吾(岐大医教授)
- 3. 第45回職場精神衛生研究会
 - 日 時：平成11年 6月25日(金) 14時~16時
 - 場 所：名古屋大学医学部鶴友会館
 - 話題提供：「勤労者における自殺の現状と課題」
荒井 稔(順天堂大・医・精神科)
- 4. 第11回産業神経・行動学研究会
 - 日 時：平成11年 7月 9日(金) 午前 9時30分~午後 5時
 - 場 所：名古屋大学医学部鶴友会館
 - 内 容：一般演題および特別講演
 - 特別講演：14時~16時
 - I 「日常の中に潜む閉鎖・隔離：現代のロビンソンたち」
田中 正文(名古屋大学環境医学研究所)
 - II 「有機溶剤の神経毒性と混合曝露に伴う修飾」
柴田 英治(名古屋大学医学部保健学科)

(特別講演は日本医師会認定産業医の基礎研修2単位または生涯研修2単位認定)

一般演題の申し込みと本研究会に関する問い合わせ先：
愛知医大・衛生 電話 0561-62-3311(内線2312)
ファックス 0561-63-8552

地方会理事会

平成10年度第 5 回理事会
 日 時：平成11年 2月 2日 14時~15時15分
 場 所：名古屋大学医学部鶴友会館 2階大会議室
 出席者：29名 委任状：49名

- 1. 報告事項
 - (1)本部からの報告事項(竹内)
 - (2)事務局からの報告事項(柴田)
 - (3)関連学会・研究会
- 2. 協議事項
 - (1)地方会ニュース(吉田)
 - (2)第14回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会
 - (3)平成11年度総会・研修会(加藤保夫)
 - (4)関連学会・研究会

平成10年度第 6 回理事会(新旧理事会合同)
 日 時：平成11年 3月30日 14時~15時20分
 場 所：名古屋大学医学部鶴友会館 2階大会議室
 出席者：40名 委任状：37名

- 1. 報告事項
 - (1)本部からの報告事項(竹内)
 - (2)事務局からの報告事項(柴田)
 - (3)第14回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会(柴田)
 - (4)関連学会・研究会
- 2. 協議事項
 - (1)地方会名誉会長推薦(竹内)

- (2)平成11年度からの地方会役員(竹内)
- (3)平成11年度総会・研修会(加藤保夫)
- (4)地方会ニュース(吉田)
- (5)関連学会・研究会

会員の異動

入 会 愛知 富岡徹(名城大商学部)、福嶋俊郎(ふくしまファミリー内科)、中山和弘(愛知県立看大)、白井みどり(愛知県立看大)、錦織正子(愛知県立看大)、木野和子(ブラザー健保組合)、松葉恭子(ブラザー健保組合)、小澤晃(小澤歯科医院)、指原俊介(JR東海総合病院)、経塚昭代(ソニー幸田)、荒武幸代(大同病院)、西田智子(大同産業医学研究所) 静岡 稲土博右(清水市立病院)、山内晃(清水市立病院)、柴田晴通(浜岡町立総合病院)、今田万里子(ヤマハ) 岐阜 片山博史(岐阜県産業保健センター) 三重 翠川薫(三重大医衛生) 他県 藤沢貞志(富山産業保健推進センター)

退 会 愛知 稲葉静代(名古屋市瑞穂保健所)、出原 汎(出原労働衛生コンサルタント事務所)、桐山敏幸(JR東海総合病院)、長谷川康博(国立名古屋病院)、村瀬賢一(中部労災病院)、鶴田尚孝(ツルタ労働衛生コンサルタント事務所)、成瀬正春(金城学院大)、吉川喜実恵(松下電工瀬戸)、加藤ちか子(松下電工幸田)、吉野貞尚(元旭労災病院)、山下葉子(NHK健保組合)、福田守男(桶狭間病院)、後藤利絵、松浦聖子(ライオン歯科衛生研究所)、渡邊憲子(名大医保健学科)、山川ひさえ(三井海上火災保険)、田中良正(田中外科)、伊藤英夫(トヨタ自動車)、祖父江勝昭(日本碍子)、藤嶋浩司(中部労災病院) 静岡 倉林竹男(静岡東部健康管理室)、宮本富士枝(社会保険事業財団静岡県支部)、田 功(マツダペインクリニック) 岐阜 井田龍三(名誉会員・死去のため)、鳥澤重男(岐阜産業保健推進センター)、仙石義寛(岐阜県産業保健センター) 三重 水谷忠司(水谷歯科クリニック)、寺嶋永子(中部電力三重)、大澤正義(国保川越診療所)、荒川幸治(三菱油化) 他県 岩野泰、小川浩(愛知産業保健推進センター)、須山浩子(三菱重工名古屋)、富士原美保子(社会保険健康事業財団愛知県支部)

転 入 愛知 後藤義明(ブラザー工業・九州地方会より)

編集後記

東海地方会ニュースはベテランの吉田勉先生を編集長に15名の編集委員で構成されています。産業医ではない私が参画させていただいたのもVDT検診、屈折問題、色覚問題で眼科学的な正確な情報をお伝えする役割として入れていただきました。産業医はどちらかというと企業サイドで危険防止、企業防衛という立場をとりやすく、就労者の人権問題は軽視されがちであるように思います。確かに危険がある場合は前もって予知し、危険防止の方策をとらなければなりません、誤った社会的通念から、危険であろうと憶測をして、処置してしまうことは、人材の損失にも繋がり、見直される必要があると思います。今、産業医の講習会が盛んに行われていますが、この視点が欠けているように思います。

(高柳泰世)

次回発行 平成11年 9月 1日
 編集責任者 吉田 勉(藤田保健大)
 編集委員(五十音順)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 井谷 徹(名市大) | 市原 学(名大) |
| 岩井 淳(全日本労働福祉協会) | 大久保浩司(東芝四日市) |
| 加藤 保夫(岐阜県産業保健センター) | 鎌田 隆(本技研浜松) |
| 後藤 猛(労働衛生コンサルタント) | 五藤 雅博(旭労災病院) |
| 榊原 久孝(名大) | 高柳 泰世(本郷眼科) |
| 巽 あさみ(藤田保健大) | 谷脇 弘茂(藤田保健大) |
| 松本 忠雄(刈谷保健所) | 山田 琢之(愛知医大) |